

平成24年度事業報告

公益財団法人 北九州活性化協議会

目 次

I. 概 況 P 3
II 公益目的事業	
1. 環境を未来に引き継ぐ事業 P 3
1) もったいない総研事業	
(1) もったいないスクール2012	
(2) もったいない精神（こころ）の普及	
(3) もったいない塾の開催	
(4) 広報活動	
2. 産業人材を育成する事業 P 5
1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業	
(1) 高度人材育成プログラム事業の実施	
(2) 社会人教育プログラム事業の実施	
(3) 青少年育成プログラム事業の実施	
(4) 産業人材育成の地域クラス形成に向けた環境整備	
3. 次世代を担う人材の育成事業 P 9
1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業	
(1) 義務教育支援事業の推進のための環境整備	
(2) 支援対象ごとに事業計画の立案と事業実施	
2) ひまわり塾の開催	
4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業 P 10
1) 「1000人の夢寄金」事業の実施	
2) その他関連事業	
5. 情報受発信・交流事業 P 12
1) 情報受発信の強化	
2) 地域づくりネットワーク事業	
6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業 P 13
1) 教育普及事業	
2) 企画展事業	
3) 調査研究事業	
4) 映像・図書収集及び公開	
7. まちづくり推進事業 P 16
1) まちづくり講演会の開催	
III 組織活性化事業 P 16
1. 会員サービス事業	
2. 地域連携促進事業	
1) 「スポーツ振興チケット」事業	
3. 組織活性化事業	
1) 運営体制の強化	
2) 会議等の実施	

I. 概況

わが国景気は昨年末に底入れし、緊急経済対策や日銀による大胆な金融緩和策の効果が顕在化して、景気の回復基調が定着し、比較的高い成長率が続くことが想定されている。

一方、国や地方自治体の財政改革が叫ばれる中、都市の経営環境もまた大きく変化し、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスと言った、地域社会の中から新しい産業や雇用機会を生み出そうとする動きが活発化してきた。

また、企業活動においても、社会のニーズや問題に取り組むことで社会的価値を創造し、その結果、企業の経営力の向上を実現するというCSV（共通価値創造）の考え方が提唱されるなど、社会と企業の関係の再定義の動きも出てきている。

こうした環境の中で、北九州地域の活性化における産学官民の連携軸の機能を持つK P E Cの事業運営に対する関心と期待は、確実に高まってきている感がある。

平成24年度のK P E C事業運営については、北九州地域の中堅・中小企業の産業人材育成のための地域システムづくりを行う「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」は2年目を迎え事業の拡充を図り、小学校の教育環境の改善に取り組む「北九州の企業人による小学校応援団事業」は体制整備を図ると共に、会員企業と共に保護者や小学校等への支援を開始した。また、教育・文化分野の市民活動を支援する「1000人の夢寄金事業」は制度整備を行い寄付募集を開始し第1期の助成を実施した。これらの新規3事業と、15年の実績を持つ「もったいない総研」事業と合わせて、中核となる4つの地域活性化事業の体系が整った。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー（K I G S）の管理運営については、指定管理第二期3年目を迎え、運営体制を抜本的に見直す共に、開館5周年記念イベントを含め「人材育成・産業技術の保存継承・技術革新の機会創出」という館の目的に即した企画・事業を実施することにより、入館者数、教育普及事業参加者数は過去最高を達成することができた。

また、K P E Cの運営体制については、新規事業の運営システムの構築及び、事務局体制の拡充を行うとともに、経営課題である財務体質改善について中期的な実施計画の検討を行った。

II. 公益目的事業

1. 環境を未来に引き継ぐ事業

1) もったいない総研事業

「もったいない総研」の運営を通じて以下の環境関連の事業を実施した。

(1) もったいないスクール2012

(社)北九州青年会議所と共同で子供の環境知識の向上を図ることを目的に実施する「もったいないスクール」事業において、環境配慮型ライフスタイルの定着を目指す活動を実施した。

- ・事業実施者：2012年度北九州ドリームサミット委員（市内から公募した中学2年生）20名
- ・実施内容：自転車発電装置を漕ぐことで発電した電気を使って電動かき氷機を動かすことにより、エネルギー（電気）の大切さを体験するイベントを開催し、延べ600名の市民が参加した。

(2) もったいない精神（こころ）の普及

“もったいない精神（こころ）”の普及を目的として、以下の活動を実施した。

① 環境「もったいない」作文の募集、表彰

子どもたちが環境問題への関心を深めることを目的に、北九州市PTA協議会と協働で「環境」をテーマとした作文を募集し、優秀作品を選定して表彰した。また、FM北九の番組「ラジオもったいない塾」に入賞者が出演し作文を朗読するなど、啓蒙を行った。

・募集対象 : 北九州市内全域の中学2年生

・応募数 : 1,039件

・表彰式 : 日時:平成25年1月19日(土)

内容:PTA協議会の役員研修会の中で環境局長が出席し、表彰した。

② 食と農のプロジェクト

有機栽培で育てた地元の農産物を消費者に紹介し、環境に貢献しながら、地元食文化の継承や子供たちの食育を進める「食と農のプロジェクト」を実施した。

i) 農業体験ツアーの実施

九州のエコビレッジのメッカになっている阿蘇小国のTAOリトリートビレッジを訪問し、農業体験やマクロビオテック・セミナーを聴講した。(10月20日、21日、参加者11名)

ii) ホームページによる啓蒙事業の実施

有機栽培農家や、有機栽培を取り扱っているレストラン、ショップなどを発掘し、ホームページで紹介した。

③ リサイクル・トイレットペーパーを通じた環境教育

i) 環境教育支援寄付の実施

リサイクル・トイレットペーパー「北九州紙えこっパー」のメーカーからの寄付金(20万円)を、北九州市PTA協議会の環境教育事業に寄付した。

ii) 「えこっパー」を活用した資源循環環境の改善への取り組み

学校給食の牛乳パックを「えこっパー」の原料として活用することを、北九州市教育委員会へ提案し、環境モデル校(小学校2校)において平成24年度から開始された。

iii) 「えこっパー」の報道取材

平成24年10月26日:FBS福岡放送の環境番組「エコスイッチ」で放映

④ 「ライトダウン&キャンドルナイト北九州2012」

環境省の「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」と、民間団体の「百万人のキャンドルナイト」の趣旨に賛同して、夏至(7月7日)に下記事業を実施した。

i) ブラック・イルミネーション

会員企業・団体に事業所照明の消灯キャンペーンを行い、多くの企業が参加した。

ii) キャンドルナイト

小倉北区のリバーウォーク北九州にて、来場者に制作してもらった「紙製」ランタンでキャンドル点灯を行うと共に、七夕コンサートを開催し、延べ500名の市民が参加した。

(3) もったいない塾の開催

① 「ラジオもったいない塾」の企画・運営

市民や企業の意識啓発を目的に、北九州シティFMの環境番組「エココロWind」にて、月1回、環境にまつわる施策や話題を提供した。

② 「もったいない塾(講演)」の実施

G・ネルソン米上院議員の提唱により設立されたアースデイ(地球環境を考えるイベント)を北九州市で初めて開催したひまわり塾第20期生を支援するため、総研主催で設立講演会「北九州の食と未来」を開催した。(4月22日)

③ 年長者研修大学校への出前講演

年長者研修大学の「暮らしと環境」講座で、「もったいない総研」の活動および「えこっパー」を紹介した。

- ・穴生学舎 : 実施日 平成24年6月19日、参加者 31名
- ・周望学舎 : 実施日 平成25年1月17日、参加者 42名

(4) 広報活動

もったいない総研の活動を周知するため、以下の広報を行った。

- ① 広報誌「もったいないすたいる」の発行 (平成25年3月、1500部)
- ② もったいない総研ホームページの改訂

2. 産業人材を育成する事業

1) 北九州地域産業人材育成フォーラム事業

北九州地域の中堅・中小企業の経営力強化と産業人材の育成をすることを目的に「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、産学官協働による産業人材育成事業を企画・実施した。

(1) 高度人材育成プログラムの企画、運営

北九州地域の工学系大学の学生を対象にした「地域連携型インターンシップ事業」を実施するとともに、産学官による「インターンシップ研究プロジェクト」を編成し、インターンシップ事業の活用可能分野及び事業運営手法の研究と事業の企画・開発を行った。

① 「地域連携型インターンシップ事業」の実施

- i) 地域連携型インターンシップビジネスモデルの拡充及びノウハウの実証研究の実施
大学、企業等のステークホルダーの自律的連携による地域一体型のインターンシップの実践的運営について事業開発と運営ノウハウの研究を行い地域モデル化の推進を図った。
- ii) H24年度地域連携型インターンシップの実施
地域4工学系大学と中堅・中小企業の協働で実施する「地域連携型インターンシップ事業」を実施した。

- ・実施期間 : 平成24年8月～9月中旬
- ・実施大学等 : 九州工業大学、北九州市立大学(国際環境工学部)、西日本工業大学
北九州工業高等専門学校

・実施状況

項目	平成24年度		平成23年度	
	参加	登録	参加	登録
大学(校)	4	4	2	2
企業(社)	57	63	33	42
学生(名)	121	159	59	62

② 「学生のための北九州企業発見ツアー」の企画・実施

北九州商工会議所が推進する産業観光事業とインターンシップ事業を連動させた企業見学ツアーを企画、実施した。(実施状況: 実施回数3回、参加校4校、参加者数97名)

③ 「産業人材育成フォーラムインターンシップミーティング」の実施

インターンシップにエントリーした企業と学生のマッチングの向上と学生の不安解消のための事前相談事業として、連携校合同のインターンシップ参加促進事業を実施した。

- ・実施時期 : H24年6月16日
- ・参加校 : 4校
- ・実施場所 : 九州工業大学
- ・参加者 : 80人 (学生: 57人、企業: 8社、コーディネーター等: 15人)

④ 「地域連携型インターンシップガイドCD-ROM」の作成

地域連携型インターンシップをモデル化し、「インターンシップガイドCD-ROM」に収録し、関係企業へ配布しインターンシップ事業の実施促進を図った。(CD-ROM作成数500枚)

⑤ 「インターンシップ研究プロジェクト」の運営

中堅・中小企業の高度人材育成ニーズに対応したインターンシップの多様な運営について、「インターンシップ研究プロジェクト」による研究を行い、企業の経営課題解決を目的とする「実践型インターンシップ」の企画開発や、地域企業のグローバル人材ニーズの実態調査を行った。

(2) 社会人教育プログラム事業の実施

中堅・中小企業の中核専門技術者及び経営・管理者のリカレント、スキルアップを目的として、産学官による「社会人プログラム研究プロジェクト」を編成し、大学の「社会人向け人材育成制度」を活用した地域事業の企画開発、研究を行った。

① 「北九州ドクターチャレンジプログラム研究プロジェクト」の運営

中核専門技術者のスキルアップを目的として、九州工業大学の「社会人プログラム」を活用した社会人ドクター創出のための地域システムの構築に向け、活用可能性調査を実施するとともに、中小企業の技術基盤向上のための支援事業として、地域大学連携による「出前講義」システムの構築に向けた環境調査を実施した。

- ・ 中堅・中小企業における「九工大社会人プログラム」の活用ニーズ調査結果
 - ✓ 工学部(H23年度) : ニーズ在り ; 36社(対象企業数63社・57%)
 - ✓ 生命体工学部(H24年度) : ニーズ在り ; 18社(対象企業数21社・86%)

② 「MBA活用プログラム研究プロジェクト」の運営

北九州市立大学大学院マネジメントコース(K2BS)関係者を中心にした「MBA活用研究プロジェクト」を編成し、中堅・中小企業の経営・管理者の育成プログラムの研究及びサテライト事業を実施した。

i) MBAサテライトフォーラム事業の実施

北九州市立大学MBA及び中小企業振興機構等と連携して、短期集中経営講座MBAサテライトフォーラム(キックオフフォーラム・連携講座)を実施した。

○ キックオフフォーラム

- ・ 開催日 : 平成24年8月29日 (会場:北九州国際会議場)
- ・ 参加者数 ; 145人

	テーマ・講師
基調講演	(テーマ)「2022年の経済社会と地域企業の経営」 (講師) 日本政策投資銀行チーフエコノミスト 鍋山 徹 氏
企業報告	(講師) (株)クロスポイント 代表取締役 斉藤 智樹 氏 (有)ラピュタファーム 代表取締役 杉本 利雄 氏

○ 連携講座「経営者のためのビジネス講座」

- ・ 会場 : 北九州市立大学小倉サテライトキャンパス
- ・ 参加者 ; 42人

回	開催日	テーマ
1	10/9	自社経営の再確認と今後を考える～ドラッカーに学ぶ①
	10/10	自社経営の再確認と今後を考える～ドラッカーに学ぶ②

2	11/16	「2022年を見据えた経営戦略と事業承継」
		計画的な事業承継のすすめ～事業承継は楽じゃない
3	12/7	戦略的人材マネジメントの実践
		業績向上を実現する「戦略・組織・人材」のあり方、考え方

ii) 中小企業の経営課題解決型事業の研究、企画の実施

研究プロジェクトが取り組むべき地域中小企業の今日的経営課題について研究・協議を行い、事業承継、他分野進出、国際展開等の中小企業の経営継承にかかる実践的なケーススタディーを行う「経営車座塾—経営継承実践講座(仮称)」の企画を編成し、H25年度実施のための環境づくりを行った。

(3) 青少年育成プログラム事業の実施

① 「青少年育成プログラム研究プロジェクト」の新設

産学官の専門家による「青少年育成プログラム研究プロジェクト」を創設し、北九州市における青少年(小・中・高)を対象にした早期工学教育(「ものづくり教育」「キャリア教育」)の体系的運営のための環境づくりを実施した。

i) 「青少年育成プログラム研究プロジェクト」の創設

産学及び教育関係機関等の専門家による「青少年育成プログラム研究プロジェクト」を創設し、対象分野を、小学校(中学も視野に入れる)を中心にした「ものづくり教育」と「キャリア教育」と定め、研究プロジェクト推進のためのフレームワークを実施した。

ii) 早期工学教育(「ものづくり教育」・「キャリア教育」)の地域環境調査の実施

研究プロジェクトの早期工学教育の体系的運営のため、国及び関係機関の政策、提言の実施状況及び北九州イノベーションギャラリー(KIGS)、九州工業大学理数教育支援センター等関連機関の設立目的および事業実施状況の調査及びヒアリングを実施した。

iii) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業と連携したプログラムの企画開発

「小学校出前授業」のツールとして、北九州出身の気象学者藤田哲也博士の生涯をテーマにしたコンテンツ(DVD)及びカリキュラム作りを行った。

(4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

① 北九州地域産業人材育成フォーラム会員企業の募集計画の編成

フォーラム事業を協働・推進する有志企業による「企業部会」の編成について、「企業部会の設置に関する勉強会」で検討を行い、規則、会費設定(年額30,000円)等の会員企業募集条件を決定し、H25年度募集に向けた環境づくりを行った。

② 「産業人材育成セミナー&産学交流会」の開催

フォーラム事業の周知と地域企業の参画促進及び地域大学関係者と中小企業の交流促進を目的としてインセンティブ事業を実施した。

i) 産業人材育成セミナーの実施

<第1回産業人材育成セミナー>

- ・ 開催日 : 平成24年4月5日(会場:北九州国際会議場)
- ・ 参加者数 : 188人(企業・行政他;147人、大学関係;41人)
- ・ テーマ : 変容する地域社会-変革期をタフに乗り切る産業人材育成とは—
— 大学、企業、そして、地域社会は何をすべきか!—
(産業人材育成フォーラム事業の地域推進環境の構築)

<第2回産業人材育成セミナー>

- ・ 開催日 : 平成25年3月11日 (会場:北九州国際会議場)
- ・ 参加者数 : 187人 (企業・行政他;134人、大学関係;53人)
- ・ テーマ : 企業におけるサステナビリティ経営戦略(CSV)とは
— 地域環境を起点とした攻めの経営手法 —
(産業人材育成フォーラム事業による地域クラスターづくり)

ii) 顔の見える産学交流会

フォーラム事業の推進基盤を活用した産学連携環境の構築を目的に、フォーラム事業関連大学関係者と地域中堅・中小企業経営者・人事担当者との交流会を実施した。

回	開催日	参加者数	大学関係者	企業・行政関係者
第1回	H24年4月5日	114人	35人	79人
第2回	H25年3月11日	116人	48人	68人

③ 北九州地域の中堅・中小企業のための九州工業大学企業説明会の実施

地場中堅・中小企業への就職機会創出を目的に4年生を対象にした学内企業説明会を開催した。

年度	開催日	参加企業	参加学生数	参加企業への就職者数
H24年度	7月7日	10社	延べ127人	11名

④ 産業人材育成フォーラム事業の広報対策の実施

i) 「北九州産業人材育成フォーラム」ホームページの開設

インターンシップ事業等のエントリーシステムや企業会員管理などのフォーラム事業事務機能も内包し、関係のステークホルダーのホームページともリンクした、フォーラム事業の情報プラットフォームとしてホームページの企画、設計を行い、開設準備を終了した。
(平成25年4月 開設予定)

ii) フォーラム事業の広報の実施

フォーラムの運営及び企画事業の告知、広報のためのニュースリリースを、北九州経済・金融記者クラブ・北九州市政記者クラブに対して実施した。

- ・ H24年8月20日: 地域連携型インターンシップ実施告知
- ・ H25年2月8日: 産業人材育成セミナー&産学交流会開催告知

iii) フォーラム事業への報道取材

ア) 新聞掲載

- ・ H24年4月11日西日本新聞(地方版:セミナー実施記事)
- ・ H24年6月12日 日刊工業(地方版:事業紹介)
- ・ H25年1月15日 日刊工業(地方版:北橋市長、利島会頭、松永学長対談)
- ・ H25年1月16日 日刊工業(全国版社説:フォーラム事業紹介)
- ・ H25年2月13日 日刊工業(全国版九州レポート:フォーラム事業紹介)
- ・ H25年2月27日 日刊工業(全国版社説:フォーラム事業紹介)

イ) インターネット情報配信

- ・ H24年11月15日 JST産学官連携メールマガジン(全国版:事業紹介)

ウ) その他

- ・ 北九州市「市勢概要13」・産学官連携ジャーナル(11月号)
- ・ 九州工業大学産学連携センター報(2013)・北九州商工会議所報(3月号) ほか

3. 次世代を担う人材を育成する事業

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」事業

(1) 義務教育支援事業の推進のための環境整備

① 小学校応援団の登録企業

「北九州の企業人による小学校応援団」の趣旨に賛同し事業を協働する企業を募集した結果、144社の登録があった。今後登録企業の拡大を推進していくこととした。(目標 300社)

② 専任事務局長の配置

「北九州の企業人による小学校応援団」の事業開発と円滑な運営を図るために「KPEC 義務教育支援委員会」に新しく事務局長を配置した。

③ 北九州市教育委員会との連携協定の締結

「北九州の企業人による小学校応援団」事業の計画的な推進と円滑な運営を図るため、「北九州の企業人による小学校応援団」・北九州市教育委員会・KPECの3者間で「連携協定」を締結することとし、協定原案作成、北九州市教育委員会との調整等の準備作業を行った。(平成25年4月 締結予定)

(2) 事業計画の立案と事業実施(支援対象ごと)

モデル校の支援要望と会員企業が実施可能な支援について、ヒアリングやアンケート調査を行い、会員企業の支援情報リスト(22社、33件)を作成し、モデル学校(11校)に提供し、その活用を図った。

① 保護者に対する支援

i) 「PTAの日」の協力と支援

北九州市PTA協議会が提唱・主導する「PTAの日」の設置に対して、小学校応援団は、協力企業の従業員の参加促進など「PTAの日」の普及と円滑な運営に資する協力・支援を行う事とし、平成25年度(2回)の実施に向けた準備作業を実施した。

ii) 親学講座の開催

PTA向けの企業の講座や工場見学などについて、支援情報リスト(2件)を作成し、全モデル校に提供し、企業等の要望に基づき親学講座2件を実施した。

区分	テーマ	概要	講師等	対象
親学講座	学校教育	小学校教育の現状と家庭教育のあり方	校長会会長	九電工従業員
	食育	食の安心・安全	かば田食品	小学校保護者

② 児童の学習支援

i) モノづくりや環境問題をテーマとする学習プログラムの提案

地元企業の先駆的な取り組みや環境問題およびスポーツ指導など、各企業の専門性を生かした出前授業および体験学習受け入れ(見学)について、企業の支援情報リスト(27件)を作成し、全モデル校に提供した。また、モデル校からの要望に基づき出前授業14件および体験学習受け入れ(見学)2件を実施した。

区分	テーマ	概要	協力企業等	回数
出前事業	環境	水の大切さを学ぶエコ教室	TOTO	1
		空き缶リサイクルの講話	新日鐵住金	1
		無添加石鹸の紹介、実験	シャボン玉石けん	3
	スポーツ	サッカー選手との交流	ギラヴァンツ	1
		陸上選手による走り方教室	安川電機	2

	憧れの職業	薬剤師の講話	慈恵曽根病院	1
		看護師の講話	産業医科大学	1
		パティシエの講話	こうのとり	1
		パン屋の講話	ブリック by ブリック	1
	交通安全	バスを使った体験講習会	西鉄バス北九州	1
	エネルギー	模型や実験によるエネ教室	九州電力	1
体験学習受け入れ	ものづくり	開発研究所（小倉）の見学	安川電機	2

③ 教職員の研修支援

i) 新任教員等を対象とする研修プログラムの提案

クレーム対応やマナー研修などについて、企業の支援情報リスト（4件）を作成し、全モデル校に提供した。また、モデル校からの要望に基づき研修講師派遣3件および体験研修受け入れ1件を実施した。

区分	テーマ	概要	協力企業等
研修講師派遣	人材育成	学校への期待、企業の目標等の講話	福屋建設、門司印刷
研修講師派遣	マナー	接遇、応対、服装等のマナー講座	ケイ・ビーエス
研修講師派遣	クレーム対応	クレーム対応（実践例の紹介）	TOTO
体験研修受け入れ	企業体験	10年次教諭4人を3日間受け入れ	西鉄バス北九州

④ 民間人校長登用に対する協力

北九州市初の民間人校長登用に当たって、北九州市教育委員会からの候補者推薦依頼を受け、「北九州の企業人による小学校応援団」として、市内に事業所を有する上場企業17社の協力を得て校長候補者6名を推薦した。

北九州市教育委員会において合格者2名（TOTO、福岡銀行）選考され、事前研修を経て平成25年4月1日付けで正式採用の予定である。

2) ひまわり塾の開催

北九州市と共催で、企業人と北九州市職員による北九州市のまちづくりについての自己啓発講座「ひまわり塾」事業を実施した。

(1) 第21期ひまわり塾

- ・実施規模：塾生21名（企業人10名、市職員11名）
- ・期間：平成24年7月6日（開講式）から1年間

※平成25年7月12日に成果発表会及び閉講式を予定

(2) 「ひまわり塾大同窓会2013」の開催

ひまわり塾開設20周年記念事業として「ひまわり塾大同窓会—21年分のわが町への思いを今—」を開催した。

- ・開催日：平成25年2月17日（ホテルクラウンパレス小倉）
- ・参加者数：100名（卒塾者数642名）

4. 都市格（教育力・文化力）を向上する事業

1) 「1000人の夢寄金」事業

都市格（文化力・教育力）の向上を図ることを目的として、教育および文化分野における市民活動へ助成する「1000人の夢寄金」事業を立ち上げ、寄付金募集のための「1000人委員会」を

設置し、第一期事業を実施した。

(1) 募金事業プロジェクトの推進

① 1000人委員会の編成

「市民の気持ちを集めみんなの力でこのまちの教育・文化活動を支援する」ことを目的に、1口3,000円(年額)の寄付者による「1000人委員会」を組織し、寄付事業を展開する体制づくりを行った。

② 寄付金募集

「1000人の夢寄金」第一期(平成24年9月設立から平成25年3月まで)の寄付金募集を行い、217件、総額1,975,000円の寄付をいただいた。寄付者の88%が個人となっており、みんなの力で支援していくという本事業の基礎的環境を創ることができた。

③ 寄付金受け入れ体制の構築

i) 寄付金優遇税制を活用できる体制の構築

公益財団法人の特例要件を生かし、県より税額控除に係る証明を取得し、寄付金控除に対応できる体制を整えた。

ii) 寄付金受け入れ体制の構築

個人からの寄付に対応して、専用郵便口座開設とあわせて専用振込用紙を制作した。また、寄付方法の拡充として、クレジット寄付システムを導入した。

(2) 助成事業プロジェクトの運営

① 1000人の夢寄金審査委員会の設置

1000人の夢寄金の趣旨に沿って公正、公平、公明性を持った審査を行うため、7名の審査員で構成する審査委員会を組織するとともに、審査委員会運営規定において審査方法および審査基準を定めた。

② 助成先団体の募集と選定

平成25年4月から事業実施を対象として、平成25年1月15日より1月31日の間、助成先の募集を行った。10件の応募について、審査委員会の審査を経て下記4事業を採択し、頂いた寄付金から1,349,000円を助成金に充当することとなった。

【第1回助成先】 (助成金額)

助成先団体名	事業名	事業概要
親子のしゃべり場 『ふわわ』 (150,000円)	ZOO と居たくなる！ おしゃべりホッとルーム	「ひきこもり」親子が最初の一步を踏み出すための居場所づくりに取り組む親と子のための教育事業
北九州しねま研究会 (500,000円)	第3回北九州市民映画祭	質の高い、多様なジャンルの映画や地域出身映画監督との意見交換など、北九州市民による市民主体型映画文化の振興を図る事業
ひまわり実行委員会 (400,000円)	ひまわりアートプロジェクト	「こどもたちと創る北九州の未来～ひまわりを咲かせよう～絵画展」。文化を通じた情操教育を図る事業
北九州映画サークル 協議会 (299,000円)	創立60周年記念 小津安二郎監督「浮草物語」 上映会	1953年から北九州未公開の世界各地の名作を中心に毎月上映会を開催。その創立60周年記念事業

(3) 広報・プロモーション事業の実施

① 「1000人の夢寄金」設立記念「北九州の心を紡ぐ集い」の開催

「1000人の夢寄金」設立を記念してキックオフイベントを開催し、当事業の本格的スタートを切った。

- ・日 時：平成24年10月31日（会場：北九州市立商工貿易会館2階 多目的ホール）
- ・参加者：250名
- ・内 容：基調講演（講師）元NHK会長 福地茂雄 氏
（テーマ）「このまちの教育・文化をあなたの手で」
： 記念コンサート シンガーソングライター 富永裕輔 氏

② 広報ツールの作成及び広報の実施

寄付事業の名称及びロゴマークについて商標登録を行った。また、夢寄金のキャッチフレーズと事業コンセプトを明確にし、パンフレットを作成し広報に活用している。

③ 1000人の夢寄金プレスリリースの実施

1000人の夢寄金の運営及び事業広報のためニュースリリースを実施した。

- ・H24年 9月21日：夢寄金の発足
- ・H24年10月20日：寄金設立記念イベント実施告知
- ・H25年 4月 1日：助成金決定告知

④ 「1000人の夢寄金」ホームページ及びFacebookの立ち上げ

当寄金の情報受発信のため、専用ホームページを開設した。（平成24年9月18日）

2) その他関連事業

(1) 北九州ミュージックプロムナードの支援

北九州活性化協議会が企画し平成8年に開始した市民参加・手作り型の軽音楽フェスティバル「北九州ミュージックプロムナード」において、実行委員会（委員長；中野副理事長）へ参画し、事業企画の調整を行った（「北九州ミュージックプロムナード2012」は17回目）。

- ・開催期間：平成24年8月11日(土)～10月28日(土)
- ・観客動員数：5997名

(2) 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビクターズ・インダストリーを民間主導で推進するための機関として平成19年に設置された「北九州市にぎわいづくり懇話会」において、企画調整委員会（委員長；小嶋理事長）へ参画し、事業企画の調整を行った。

5. 情報受発信・交流事業

1) 情報受発信の強化

(1) KPECニュースの発行

機関紙「KPECニュース」を発刊し、会員企業および関係団体に配布した。

発行1回（時期：平成24年5月、配布部数：1000部）

(2) ホームページの運営

新規事業の立ち上げを踏まえ、KPECの情報提供システムの再構築を行い、本体ホームページ更新及び各事業のホームページ立ち上げ準備を行った。

- ・KPEC本体HP（平成25年4月更新）
- ・北九州地域産業人材育成フォーラムHP（平成25年4月立ち上げ）
- ・1000人の夢寄金HP（平成24年9月立ち上げ済）

・もったいない総研HP（平成25年度更新）

2) 地域づくりネットワーク事業

(1) 北九州地域経済団体連携フォーラム事業

北九州市内経済団体の連絡会議（構成：北九州商工会議所、（公財）北九州活性化協議会、（一社）西日本工業倶楽部、（社）北九州中小企業経営者協会、（社）北九州青年会議所、（社）北九州青年経営者会議）を編成し、各団体間の情報交換と事業連携を図った。

① 共催事業の実施

「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を開催した。（内容別記）

② 協力事業の実施

各団体の事業に関する情報交換および事業連携を図った。

(2) 地域づくりネットワークへの参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」の北九州ブロック代表幹事として、同協議会主催の研修会・交流会等に参画し、北九州市域の地域づくり団体との橋渡し役を果たした。

6. 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

平成22年4月から第2期指定管理者を受託し、北九州市に提出した事業計画に基づき、事業運営に取り組んだ。また、今年度は開館5周年目に当たったことから様々な記念イベントを開催した。

<利用者目標・実績>

入館者、企画展観覧者、教育普及参加者の数値目標はいずれも達成した。また、入館者数及び教育普及参加者数は開館以来の記録を更新した。

《数値目標達成状況》

項目	計画	実績	達成率	備考
入館者数	61,500人	65,920人	107%	過去最高値：平成19年度64,029人
企画展観覧者数	18,400人	19,143人	104%	秋・冬企画展が貢献。
教育普及事業参加者数	8,300人	14,056人	169%	学校等団体誘致活動により来館数増加。 過去最高値：平成23年度10,563人

1) 教育普及事業

当館の教育普及事業として、以下の各講座及び、独創的で多彩なイベントを企画、実施し、多くの参加者に好評であった。

(1) イノベーションフォーラムの開催 [計2回]

- ・「教育・科学技術・イノベーションの一体推進のすすめ」（平成24年10月13日）
- ・「地元技術を融合したイノベーションの創出～京都のものづくりに学ぶ」（平成25年2月8日）

(2) 技術革新講座の開催 (計4回)

- ・年間テーマ 「技術イノベーションの最前線～医療の視点から」

No	テーマ
1	体内を外から診る!?!～画像診断技術の挑戦
2	体内に入って診る・治す!?!～医用マイクロマシンの挑戦
3	がんを狙い撃つ!?!～放射線技術の挑戦
4	人と機械を繋ぐ!?!～BMI技術の挑戦

(3) ものづくり講座の開催 (計6回)

- ・一般対象の講座(デロリアンEV化計画) (1回)
- ・工業高校生対象の出前講演 (4回)
- ・福岡県産業観光関係者対象の出前講演 (1回)

(4) デザイン講座の開催 (計3回)

- ・伝えるデザインの大切さ
- ・エモーショナルデザイン～人の感情に訴えるデザイン手法
- ・地域で発想するビジネスデザインの力

(5) 開館5周年記念イベント (参加者数 計400名)

- ・記念講演会:「グローバル市場における、これからの日本のビジネス」
- ・公開座談会:「3学会会長が語る 技術革新史の過去・現在・未来」
- ・特別企画:「音声認識型対話ロボット『ワカマル』東田にあらわる」
- ・熱気球体験飛行:芝生広場
- ・鉄工作体験 等

(6) その他

市民講座、技能伝承道場、調査研究報告会、ワークショップなどの事業を実施した。

2) 企画展事業

当館のコンセプト～イノベーション～を切り口とした展示会及び特別展を開催した。

企画展名称		期間		開館 日数	観覧者 数	備考
		初日	末日			
春 企画展	伝える→電話・ ケータイ展	3月 24日	6月 17日	67	2,981	ハンドル式、プッシュ式など様々な電話機を展示、ダイヤル式電話を実際にかける体験コーナーなど、通信技術の変遷を展示や体験を通して紹介した。
夏 企画展	創る・造る・作る 手づくりあそび展	7月 7日	9月 23日	74	8,640	テレビゲームなどでは味わえない「手づくりあそび」を、自分で考え造り、使って遊ぶことで、新しい発見や感動、コミュニケーションできることの楽しさを体感していただいた。
秋 企画展	夢をかたちに一 産業デザイン の世界	10月 13日	12月 16日	56	3,633	モノのデザインの成り立ちや意図、また人目に触れることの無いデザインの過程を、モノのデザインに携わるインダストリアルデザイナーの視点で紹介した。
併設 展示	若戸大橋開通 50周年記念展	10月 7日	10月 28日		無料	日本の橋梁技術の粋を集めた国内初の長大つり橋の年表や図面、橋梁技術、当時の新聞などをパネルで紹介した。
冬 企画展	レオナルド・ダ・ ヴィンチ もう	1月 12日	3月 10日	50	3,562	ダ・ヴィンチの遺した貴重な手稿や素描のファクシミリ版と、それに基づいて再現された模型

	一つの遺産					など約 100 点を展示した。
併設 展示	北九州イノベーター 列伝				無料	北九州が日本を代表する工業地帯として発展した背景にあるイノベーター14名の生い立ちや人物像、功績などを紹介した。
併設 展示	福岡発！イノベーションのたまご展					大学の豊富なアイデアから未来のイノベーションを切り開く技術が生み出される。県内の工学系大学から3つの研究室を紹介した。
春 企画展	ヒトと共にある ロボット展	3月 30日	6月 30日	2	327	(平成25年度春企画展)
計				249 日	19,143 人	

※開館日数は、平成24年度に係る日数で表示しています。

3) 調査研究事業

地域の企業や大学及び博物館との連携、産業技術の保存と次世代への継承を目的として、国立科学博物館、技術士会などと連携し、自主調査研究を行うとともに共同研究や委託研究を行った。

(1) 「北九州における板ガラス産業の歴史と発展」の調査・研究

- ・当館調査研究部門の監修のもと、公益社団法人日本技術士会北九州支部の大里信義氏に当館特任研究員として委託して実施した。

(2) 「鉄鋳物の技術系統化調査」の調査・研究

- ・国立科学博物館と共同研究にて実施した。

(3) 「マイスターによる効果的な技術指導 ～精密手仕上げ作業～」の調査・研究

- ・当館調査研究部門及び工房長監修のもと、北九州マイスター技能伝承倶楽部に委託して実施した。

(4) 「北九州イノベーター列伝Ⅱ」の調査・研究

- ・当館調査研究部門の監修のもと、公益社団法人日本技術士会北九州支部の4名に当館特任研究員として委託して実施した。

(5) 「北九州の産業発展・都市発展と交通の関係」の調査・研究

- ・当館調査研究部門の監修のもと、シンクタンク(株)シー・ディー・アイに委託して実施した。

4) 映像・図書収集及び公開

企画展事業との連動する図書等もあわせ、イノベーション、産業技術、デザインに関する映像の制作や図書を積極的に収集するとともに、迅速な公開に努め、利用者の研究や学習を情報面から支援した。

(1) 図書の購入

技術専門書、企画展及び各種講座やフォーラムに関連する書籍、定期刊行物(新聞・雑誌)などに分類し多分野に亘って広く購入した。また、種類別コーナーを区分してわかりやすく一般へ公開した。

- ・図書の購入数(平成24年度) : 1098冊(書籍775冊 雑誌323冊)

(2) 映像の作成

人と環境にやさしい”無添加石けん”の分野において先導的なメーカーであるシャボン玉石けん(株)が開発した無添加石けん、及び水使用量を最少化した石けん系泡消火剤の技術に焦点をあて

た開発物語である「無添加を極める～人と環境にやさしい石けん物語」(約23分)を制作した。

7. まちづくり推進事業

市民・団体・大学・行政等の連携軸として北九州の街づくりのための環境づくりを行う、公益財団法人KPECの組織的位置づけを踏まえ、「北九州経済団体連携フォーラム」を編成し、共同事業として恒例事業である「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を実施した。

1) まちづくり講演会の開催

北九州市の経済団体の連携により、明日の元気な北九州のまちづくりの推進を目的として、「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を開催した。

- ・日 時 : 平成25年3月4日(月) (リーガロイヤルホテル小倉)
- ・テーマ : 「ダントツ経営ー日本国籍グローバル企業に自信ありー」
- ・講 師 : (株)小松製作所 会長 坂根正弘 氏
- ・聴講者 : 600名

III 組織活性化事業

1. 会員サービス事業

1) 情報提供の推進

会員管理システムを更新し、管理機能の向上を図ると共に、1000人の夢寄金事業への対応措置を行うとともに、会員への情報伝達向上を目的に、メールアドレス登録を推進した。

2) 会員募集の強化

会員管理システムの更新時に、会員情報履歴の整備を実施した。

2. 地域連携促進事業

1) 「スポーツ振興チケット」事業

「スポーツ振興チケット」の作成とその運用を通じて、「青少年のスポーツマインドの醸成」と「健全な心身の育成」を図ると共に、地域シンボルとしての「ギラヴァンツ北九州」の応援を通じてまちづくりの心を醸成する「青少年の健全育成事業」を実施した。

(1) 「KPECスポーツ振興チケット」の製作と運用

「ギラヴァンツ北九州」のホームスタジアム公式戦に使用できる「KPECスポーツ振興チケット」を企画・製作し「スポーツ振興による青少年の健全育成実行委員会」を通じて北九州市および近隣地域の小中学校、高校、大学に配布した(25.6万部)。

(2) 事業の成果

① 数値上の効果

項 目	累 計	1試合平均	構成比
全体入場者数	70,274人	3,346人	100%
「KPECスポーツ振興チケット」を使用した入場者数	9,257人	514人	15%

「KPECスポーツ振興チケット」を使用した入場者数 累計：16,353人

② 運営上の効果

「KPECスポーツ振興チケット」の運用を通じて、地域シンボルとしての「ギラヴァンツ北九州」が小学校・中学校に浸透し、青少年のスポーツマインドを高めることに貢献した。

3. 組織活性化事業

1) 運営体制の強化

(1) KPEC本部の体制

① 事業運営体制の整備

4つの主要事業の本格的展開に向け、専門委員会および事務局の体制整備を行った。

- ・北九州地域人材育成フォーラム : 事務職員採用 (産業人材育成委員会)
- ・北九州の企業人による小学校応援団 : 事務局長専任・業務委託 (義務教育支援委員会)
- ・1000人の夢寄金 : 1000人委員会設置及びKPEC外部事務局スタッフ設置

② 財務体質改善対策の実施

KPECの財務運営体制の改善を図るべく、収支両面からの改善策を検討し、経費削減、管理費収入の増額、事業運営における外部資金の導入等の短期的措置を実施するとともに、中期的な視点に立った財務体質の改善計画を編成した。

(2) KIGSの運営体制改革

KIGS館長及び管理部門人事を実施し、調査研究事業を強化するため調査研究室長を設置、経理業務の効率化による経理担当職員の削減等の運営体制全般の見直しを実施した。

財務・人事・庶務等に関しては、KPECの関連規定全般の見直し、整備を行い、KPEC本部と整合性がとれた運営管理を推進するとともに、労働時間等を見直し、労務環境も大幅に改善した。

資金運用についても、年間の資金計画を見直すとともに、市と指定管理料月額の調整を行い、銀行借入の中止等、資金管理業務の大幅軽減を図った。

2) 会議等の実施

(1) 会議の開催

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

① 評議員選定委員会の開催

第1回 (書面開催) : 平成24年5月30日

② 評議員会の開催

第1回 : 平成24年6月11日、第2回 : 平成25年3月26日

③ 理事会の開催

第1回 : 平成24年5月23日、第2回 : 平成25年3月13日

④ 執行役員会議の開催

第1回 : 平成24年4月17日、第2回 : 平成24年7月24日

第3回 : 平成24年8月28日、第4回 : 平成24年9月25日

第5回 : 平成24年10月15日、第6回 : 平成24年11月14日

第7回 : 平成24年12月14日、第8回 : 平成25年 1月23日

第9回 : 平成25年2月19日

(2) 下部規定の整備

1000人の夢寄金事業の開始に伴う「寄付金取扱規定」等の新設や、労働契約法の改正等に伴

い規定の整備を行った。(新設2件、改正5件)

(3) 公益法人関係処理

① 定期提出書類

- ・平成23年度報告・決算(平成24年6月)
- ・平成25年度計画・予算(平成25年3月)

② 変更届

- ・役員等の変更届2件

(4) その他

① 行政庁(福岡県)の立ち入り検査

監督官庁の福岡県による定期立ち入り検査が平成25年3月22日に行われた。

その結果、法令・寄附行為に反する点はないとの判断が示された。

なお、法人の運営をより適切なものにしていくために、改善を行ったほうが良いとの指摘が4項目あったので、早急に改善する予定にしている。

以上